

発明の日記念講演会 開催

「企業知財活動の変革と特許事務所の顧客対応力向上への期待」

～生き残りを掛けての競争優位活動を考える～

4月18日の「発明の日」を記念して、全国各地で科学技術や発明に関するさまざまな行事が開催されましたが、大阪発明協会では、昨年度より「発明の日」を記念する記念講演会を開催しております。今年度は知的財産に関する知識の啓発を資することに努め、関西を中心とした企業や個人の知財活動に貢献している任意団体である「関西知的財産協議会(NIPA)」との共催により、前・積水化学工業(株)理事・知的財産部長、元当協会副会長であり、現在はNIPA会長、(株)サン・フレア施策アドバイザー、特許業務法人クレイア特許事務所戦略アドバイザーとして、知財業界で広く活躍されている、石原 幹也 氏を講師にお迎えいたしました。



知財実務家にとって興味深いテーマであったこともあり、本講演会には、NIPAからの参加者も合わせて70名以上の参加者を集め、会場に入りきれないほどの盛況となりました。前半は、石原氏の出身企業である積水化学工業における知的財産活動を事例に挙げ、知財活動が経営に貢献していることをいかに見せることができるか、経営トップにアピールするその重要性を、石原氏が自身の体験談をもとに説明されました。

また知財部員の意識改革として、知財部員の意識や知識を権利化のためではなく、権利活用のために注力することが大事であり、発明ありきの視点ではなく、事業に必要な知財を作り出す先取り型の視点が必要であることを述べられました。後半は逆に特許事務所側の視点に立ち、顧客からの指示をただこなすだけの姿勢から脱却し、顧客の知財戦略立案まで踏み込める提案力と顧客が何を求めているかを知るために日頃から豊かなコミュニケーション力を持つことが望ましいことを提言されました。

石原氏の豊富な人脈とコミュニケーション力の高さに裏打ちされた参加者を引きつける語り口は、期待以上の好評価が得られ、企業知財担当者・特許事務所関係者双方にとっても、非常に有意義で今後の活動に活かすことのできる内容であったと思われます。

当協会では今年度もこのような知財意識の啓発や知財に関する情報提供のための無料セミナーを数回実施していく予定です。